3・11 後を生きる

捨てたくないよ

宮城ま咲

色画用紙で切り絵をしていたら
ちょっとした気のゆるみで
指を傷つけてしまった
画用紙に赤いしずくが落ちた
痛くて情けなくて、くやしくて
思わず泣いてしまったので
涙も作品をぬらした
動揺して手で払ってみたら
繊維が水気で溶け出して
白い光の窓まで汚してしまった
もう下書きの線もよく見えない
ふやけてべこべこの画用紙
先生は
新しい作品を始めればいいと
励ましてくれたけど
この
ぐしゃぐしゃになった作品を
元に戻してやり直す方法は
教えてくれないんだ
どうして？

（「脱原発・自然エネルギー218人詩集」より）

みやぎ　まさき
1978年、長崎県生まれ。大阪文学学校通信教育部所属。長崎市在住。

いつも通り明かりが灯（とも）り、そして増えていくはずだった地図は、あの夜まっ暗だったろう。
日常は、まるで紙の工作物のようにもろく壊れた。水ににじんで。
器からこぼれ出した命が、いつもの白い人工灯の代わりに夜の町でゆらめく情景。忘れない。
「またやり直す」のをみんな応援しています！
とにぎやかだけど、一度損ねたその場所を「元通りにする」方法をおしえてくれる人が見当たらないのは、なぜですか。

アシタノコトバ